



問 認知症高齢者の徘徊対策に小型のGPS機器の購入補助を

5月10日に美杉地域で認知症高齢者が行方不明になる事件が発生した。近年、高齢化率が上昇している中で、徘徊SOSネットワーク津事業への協力者数が非常に少ないと感じるが、どのようなPRをしているのか。

また、現在、津市はGPS機能を有した徘徊探索器を貸与しているが、伊賀市が貸与しているような小型のGPS機器の購入補助の考えは。

答 認知症施策の選択肢の一つとして協議を進めていく

徘徊SOSネットワーク津事業は、認知症の方が行方不明になった際に、警察や家族などからの依頼により、認知症サポーターなどの協力者に、行方不明者の身体的特徴や服装等の情報をメールで配信し、捜索の協力をお願いするものであり、地域包括支援センターや各地域福祉活動団体の研修会などの場における紹介や、民生委員・児童委員のご協力をいただきながらPRに努めている。

今後、認知症高齢者が増加していくことが予想される中で、小型のGPS機器の購入補助については、認知症施策のさらなる充実を図るという観点から、選択肢の一つとして協議を進めていく。

その他の質疑・質問

- 獣害対策について
- 一般廃棄物収集運搬等について
- 合特法支援事業について

高齢化率が60%を超える美杉地域



問 津城復元のためのワーキングチームの設置を

津城はまちのシンボルとしての存在でもある。丑寅櫓・戌亥櫓・多門櫓の古写真と図面も発見されており、津城復元の準備は整っている状況である。続日本100名城に選定されてから5周年となるこの時に、津市としてワーキングチームを設置して、「ふるさと津かがやき寄附」も活用しながら石垣の修復とともに、津市民の念願である津城復元へ向けて取り組むべきでは。

答 関係部局と連携し、今後の津城の整備について検討を進める

歴史的な価値を保全して後世に伝えていくこと、文化財保護の立場から史跡の保護・管理を図りつつその整備・活用を図っていくことが必要であり、復元に当たっては土台となる石垣が大切であると考えている。文化の面や中心市街地活性化といった面からの検討を行うため、関係部局との連携を図るとともに、県指定史跡であることから県教育委員会や専門家の指導も得ながら検討を進める必要がある。寄附金の活用については、津城整備を進めるに当たって、中心となって活動されている皆さまのお考えを聴きながら、今後の津城をどう考えるかを決めていくタイミングだと思っている。

その他の質疑・質問

- 津城復元について
 - どのようなビジョンを描いているのか
 - 旧社会福祉センター除去の進捗状況は
 - 感震ブレーカー普及促進への補助金の考えは
 - 建設、土木事業の平準化への今後の取り組みは
 - エリアプラットホーム構築等、都市拠点再生推進事業の進捗状況は **など**

津城跡 模擬櫓

